

# 法人・保育園中期計画

2024年度～2028年度



社会福祉法人

鶴見あけぼの会

(目次)

1. 策定の趣旨.....	1
2. 計画の性格.....	1
3. 計画期間.....	1
4. 計画のめざす子ども像、保育目標、基本方針、経営理念.....	2～3
5. 重点課題と計画事業	
(1) 法人本部.....	4～6
(2) 鶴見あけぼの保育園中期計画.....	7～10
(3) 矢向あけぼの保育園中期計画.....	11～15
6. 計画の進行管理.....	15
(資料) .....	16～23
あけぼの紙芝居.....	24～33

表紙絵は、磯松 法男 様（あけぼの共同保育所の卒園児のおとうさん）の作

## 1. 策定の趣旨

横浜市の認可保育園である鶴見あけぼの保育園（2005年4月開園）及び矢向あけぼの保育園（2014年4月開園）の源流となるあけぼの共同保育所は2022年4月に廃止となり、3園から2園体制となっています。

そして、2023年度当初の入所園児数は2園とも定員に達していない園児数に直面、開園していれば園児が来て、結果として安定した収入財源を確保、園運営・法人経営を継続できるという好循環は今後期待できなくなり、ここで行動しなければ「負のスパイラル」に陥りかねません。

保育園をめぐっては、少子化や育児休暇の普及、さらに、さまざま「育児観」の広がりなどの社会のうごきがあります。幸い「あけぼの」には、1967（昭和42）年、「看護師が働き続けるために」と、汐田病院に働く人びとにより民家二階の一室を借りて開始した共同保育所以来の着実な実践の積み上げや保育スタッフ、保護者、地域社会の関係者や行政とのつながりがあり、これらを基盤として、「いまを直視した今後の『あけぼの』の目標と方向性の再確認、重点課題と事業の計画化」を行い、現在の困難の打開にとどまらない、より積極的に未来を探り、取り組みをすすめます。

現在、保育園と法人は一年ごとの事業計画と予算を作成していますが、新たな状況を踏まえ、これまでの理念や保育目標などの再確認とともに、立地している地域社会の子育て拠点施設としての役割など園と法人の役割の再定義と事業の計画化、配慮の必要な子どもの増加など通園している子どもたちの様子に応えた取り組み改善、そして、保育人材の確保や養成・定着、財務を含めた法人運営基盤確立などの今後の方向性を検討、見通しの確保と事業の計画化に着手し、現在と未来に希望を持てる、安心して子どもを通園させることのできる、そして、誇りを持って働き、係わることのできる保育園・法人づくりをすすめていきます。

2. 計画の性格 園児、保護者、園と法人の役職員、地域社会関係者、みんなの計画

3. 計画期間 2024年度～2028年度

## 4. 計画のめざす子ども像、保育目標、基本方針、経営理念

### (1) めざす子ども像

- ・ひとりひとりが主人公、意欲をもって、どんなことにも挑戦しよう。
- ・思いっきりからだを使って遊ぶことが大好き、自然にふれながら五感をたっぷり育てよう。
- ・お友だちがいっぱい、仲間といることが大好き、思いやりの心を育て、失敗も成功もみんなの力にしよう。

### (2) 保育目標

- ・子どもひとりひとりを大切に

子どもたちの内面には、たくさんのが詰まっています。それぞれの家庭での育ちを土台に、「あそぶ、たべる、ねむる」をしっかりと、たっぷり行います。

育ちの根っこになる、大人との信頼関係を築き、ひとりひとりのペースを尊重、「仲間・時間・空間」を大切にします。

- ・五感をたっぷり働かせて遊びます

おもちゃや道具にとらわれることなく、草・木・花・虫など自然にふれ、砂遊び、どろんこ遊び、歩く体験をたっぷりして、豊かな感性と丈夫な体を育みます。

- ・自分の気持ちを伝えられる子に

子どもの力を信じ、主体性を大事に保育します。信頼する大人や友だちとの間で、自分の考えたことなどを素直に表現できる保育をすすめます。

### (3) 基本方針

長年の共同保育で培ってきた「子どもをまん中に大人同士がつながり努力しあう」という子育ての理念に基づき、子どもたちの生命を守り、豊かに育ち、ひとりひとりが尊重され、生きる力が育つことをめざし保育にあたります。

また、保護者や地域社会の人びとが安心して子育てができるように、みんなで心を合わせ、ともに考え、ともに喜びあえる保育園をめざします。

#### (4) 経営理念

憲法・児童憲章・教育基本法・子どもの権利条約などの精神に基づき、子どもたちの生命を守り、心身共に健やかに育つことをめざし努力します。

そのためにも、保護者を始め子どもとかかわる全ての人びとが安心して働き、生活できる社会の実現をめざします。

## 5. 重点課題と計画事業

### (1) 法人本部

①子どもの発達保障と安心して子育てできる地域社会づくりの拠点機能発揮

○鶴見あけぼの保育園、矢向あけぼの保育園の設置・経営

・入所児は、鶴見あけぼの保育園 69 名（定員 60 名、定員外 9 名）、矢向あけぼの保育園 60 名（定員）とします。

・入所状況を検討し、年齢別入所定員の変更を適時実施します。

・鶴見区の将来の人口推計や保育ニーズの見通しや地域社会の状況を踏まえて入所定員の見直しを検討します。

・施設の地域開放、交流保育や育児講座を充実します。

○「保育相談事業」、「児童発達支援事業」、「学童保育事業」、「病児保育」など子育て支援拠点としての事業を検討・計画化します。

○設置者としての保育環境の整備

・施設・設備の修繕、備品の更新を SDG s を考慮して計画的に実施します。

○長期修繕計画の策定と経費確保

②園運営を担う人材の確保、養成・定着と働く環境の整備

○園長、副園長、主任など幹部職員の養成

・園長、副園長、主任など幹部職員の養成は、法人の最重要課題として取り組みます。

○職員の採用、配置、評価のルールの整備と運用体制の確立

○保育士採用のための取り組みと体制の確立

・保育実習を積極的に受け入れます。

・中高校生を対象に「一日保育体験」を実施します。

・保育士採用担当者を配置します。

・保育士宿舍借り上げを実施します。

○職員の資質と専門性の向上

・目標とするキャリアの設定（キャリアパス）。その内容には資格取得の奨励、費用、時間などの支援を含みます。

- ・乳児、幼児、障害など「分野」に精通した保育士を育成します。
- ・保育実践研究の奨励とその成果を公表します。
- ・合同研修の実施、交流の機会を設けます。
- ・研修担当者を配置します。

#### ○業務の効率化とゆとりある労働環境・運営体制の整備

- ・職員の構成、勤務形態、処遇などを検討します。
- ・ICTの活用を促進します。
- ・専門分野での外部スタッフ（会計士、情報通信技術者等）の導入を検討します。

#### ○人事異動・交流制度の確立と実施

- ・保育内容の統一、人材育成、スキルアップ等を目的に人事異動・交流制度を確立し、実施します。

### ③法人の組織運営と財政基盤の確立

#### ○法人運営とガバナンス強化

- ・法令遵守と開かれた法人運営をします。
- ・次世代の役員体制を検討します。
- ・役員研修を実施します。

#### ○中期財務計画を作成します。

#### ○関係機関・団体との連携の促進

- ・運営と事業の充実強化を図るために、区役所、横浜保育問題協議会、鶴見区子育て教育懇談会、汐田総合病院等関係機関・団体との連携を促進します。

#### ○財源確保の多元化と計画化及びコスト管理の徹底

- ・園の魅力を発信し、園児確保につなげます。
- ・寄附金の募集促進とともに、賛同者の参加の機会を広げるために、「あけぼのファンド」の設置を検討します。
- ・コスト管理の徹底のための仕組みをつくりまします。

#### ○保育制度の拡充に向けた取り組みの促進

#### ○園児の状況や地域社会のニーズ、施策動向を踏まえた法人のあり方検討

- ・園児の状況や地域社会のニーズ、施策動向を踏まえた法人のあり方を検討するためのプロジェクトを設置します。

④災害時など緊急時に備えた体制、設備の整備

- ・自然災害や新型コロナウイルス感染症等感染症発生時に備え、事業継続計画を作成します。
- ・日常的に感染症対策に取り組みます。

⑤参加型運営とネットワークの確立

○情報公開と情報セキュリティ対策の促進

- ・情報発信の充実のために、ホームページや園だよりなど広報誌の見直し・手段の検討を行います。
- ・SNSの活用を検討実施します。
- ・個人情報の保護を重視します。

○園・法人運営への参加体制の確立

- ・保護者会、地域社会の関係者との連携を強めるために、三者懇談会（保護者、園、法人）と運営協議会の充実を図ります。
- ・あけぼの後援会を設立します。



## (2) 鶴見あけぼの保育園中期計画

### 1. はじめに

鶴見あけぼの保育園は、開園から 20 年目を迎えました。開園当時から今日までの間に、社会は大きく変化し、子育て観や保育を取り巻く情勢も変わってきています。社会全体が高齢化を迎える中、児童福祉分野においては少子化が進む一方であり、育児力低下・育児の孤立化・児童虐待・不適切保育・保育士不足などが生じるとともに、ICT 化や DX 導入が進んでいます。保育ニーズの変化を踏まえながら、今後についての計画を策定します。

### 2. 法令遵守し、開かれた園運営をします。

### 3. 策定にあたっての基本的考え方

(1) この計画の策定に当たっては、鶴見あけぼの保育園のこれまでの歴史の振り返り、新たな視点を踏まえながら、計画のめざす子ども像、保育目標、基本方針、経営理念に則った、歩むべき方向を示すものとします。

(2) 保育ニーズの多様な変化に対応するとともに、子どもの発達保障・自己肯定感の育みを基本にしながら、明るく希望あふれる保育園運営を展開できる計画にします。

(3) 保育事業にとどまることなく、地域福祉の拠点としての役割が果たせるよう地域との相互連携や、情報発信の場となるよう計画します。

### 4. 定員 60 名（定員外 9 名）

### 5. クラス編成等

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
園児数	9 名	12 名	12 名	12 名	12 名	12 名	69 名
保育士数	3 名	3 名	3 名	1 名	1 名	1 名	

常勤フリー保育士・パート保育士 10 名/栄養士 1 名/調理員 4 名/事務員 2 名/保育補助 1 名

## 6. 計画の内容

5 か年計画 (2024 年度～2028 年度)	
1) 保育事業	
①通常保育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障害の有無にかかわらず、真に子どもがよりよく生きていくことができるよう、ひとりひとりの子どもの得意を伸ばしながら自己肯定感を育む保育を進めます。時には、保護者に理解・協力を仰ぎ、個別支援加算・障害児加算を得、園児も職員も安心して保育ができるようにします。継続して発達療育支援を学び、職員は適切な保育を行います。</li> <li>・保育所保育指針に沿った子どもの主体性を尊重した保育</li> <li>・五感を育む保育。非認知能力を育み育ちの基礎を作る保育</li> <li>・ふれあいを大切に人との信頼を築く保育</li> <li>・実体験を大切にした保育</li> </ul>
②一時保育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労要件・リフレッシュ要件・緊急一時要件など、様々な理由で保育を必要としている家庭の子ども（1歳児・2歳児を中心に）を保育し、子どもと保護者が安心して生活できるよう支援します。</li> </ul>
③子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域支援講座・地域交流・園庭開放の実施。育児不安・悩みに応えられる子育て相談の設置。地域支援担当チームの確立。育児相談体制の確立。地域への宣伝アピール。しゃべり場やミニ懇談会の開催。音楽会や園児との遊び交流会へのお誘い。</li> </ul>
2) 施設整備等	
①建物整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模修繕実施。調査開始→修繕計画作成→修繕</li> </ul>
②機械・機器・器具等の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理室冷凍・冷蔵庫の買替</li> <li>・大型プール修理（工場にて）</li> <li>・大型エアコン交換 1 期・2 期・3 期。</li> </ul>

3) 人材育成・体制	
①幹部養成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人内会議の定例開催（三役・実務者・園長・主任・リーダー・栄養士・事務）</li> <li>・主任保育士のフリー配置</li> <li>・副園長配置</li> <li>・次期園長候補配置</li> <li>・次期リーダー配置</li> </ul>
②養成校との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各校訪問の実施</li> <li>・就職相談会への参加</li> </ul>
③保育実習生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習担当専任者の配置。実習生への情報発信。実習生の就職採用</li> </ul>
④職員のキャリアアップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新人職員養成の確立。鶴見あけぼの保育園マニュアル集の配布</li> <li>・園外での保育実践発表。分野別研修チームの確立</li> <li>・全国民間保育園経営懇話会主任セミナーへの参加（主任・リーダー）</li> <li>・職員研修カルテの作成</li> </ul>
⑤インターンシップ 職業体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当者の配置。</li> <li>・積極的に、中学生・高校生・大学生を受け入れます。</li> </ul>
⑥卒園児との交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児とのあそび交流。特技・あそびの披露会など実施</li> <li>・職業体験の受け入れ</li> <li>・夏祭りへ出店</li> </ul>
4) 防災・救急対策	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練の実施。備蓄品の管理。地域の防災訓練への参加。災害時の町内会との連携。防災研修開催・防災講座受講。防火管理者講習受講。</li> </ul>

5) 保護者との連携	
	・保護者会の活動を尊重し、協力関係を深めていきます。
6) 地域貢献	
	・地域の子育て拠点及び開かれた施設として地域住民が活用できるように細則整備。施設開放・貸出し。 近隣高齢者との交流
7) あけぼの後援会	
	・鶴見あけぼの保育園の卒園児・保護者をはじめ、鶴見あけぼの保育園を応援・支援する人たちの集いの場を設けます。「あけぼの」というアイデンティティを介して人々が支援し合えることや、鶴見あけぼの保育園の永続性の追求のために、財政支援の一翼を担います。
8) エコ活動	
	・布おむつ使用 ・太陽光発電等発電機器の設置 ・雨水利用装置の設置 ・使用済み切手・ハガキの回収 ・EM 活性液作り・ボカシ作り ・出汁がら（煮干し・鰹）からの堆肥作り ・野菜くずからの堆肥作り
9) 20 周年記念行事の実施	

#### 7. 保育制度の拡充に向けた取り組みの促進

他園・他団体との連携をとり、会議・研修・運動に参加し保育制度の充実、拡充にむけ取り組みを進めていきます。

- 全国保育団体連絡会 ○神奈川県保間協議会 ○横浜市保育問題協議会
- 日本子どもを守る会 ○保育研究所 ○横浜市社会福祉協議会保育福祉部会
- 横浜市私立保育園こども園園長会 ○よこはまの保育を考える園長の会
- 鶴見区子育て教育懇談会

### (3) 矢向あけぼの保育園中期計画

#### 1. はじめに

開園当時から今日までの間に、社会は大きく変化し、子育て観や保育を取り巻く情勢も変わってきています。社会全体が高齢化を迎える中、児童福祉分野においては少子化が進む一方であり、育児力低下・育児の孤立化・児童虐待・不適切保育・保育士不足などが生じるとともに、ICT化やDX導入が進んでいます。保育ニーズの変化を踏まえながら、今後についての計画を策定します。

#### 2. 法令遵守し、開かれた園運営をします。

#### 3. 策定にあたっての基本的考え方

(1) この計画の策定に当たっては、矢向あけぼの保育園のこれまでの歴史の振り返り、新たな視点を踏まえながら、計画のめざす子ども像、保育目標、基本方針、経営理念に則った、歩むべき方向を示すものとします。

(2) 保育ニーズの多様な変化に対応するとともに、子どもの発達保障・自己肯定感の育みを基本にしながら、明るく希望あふれる保育園運営を展開できる計画にします。

(3) 保育事業にとどまることなく、地域福祉の拠点としての役割が果たせるよう地域との相互連携や、情報発信の場となるよう計画します。

#### 4. 定員 60 名

#### 5. クラス編成等

基本的には、下の表のようなクラス編成を進めます。地域の保育ニーズの状況に合わせ場合によっては、学年の子どもの入所人数を前後させ60名の定員にしていこう計画していきます。

	0歳児	1歳児	2歳児	3・4・5歳児	3・4・5歳児	合計
園児数	6名	8名	10名	18名	18名	60名
保育士数	2名	2名	2名	2名	2名	

常勤フリー保育士2名／パート保育士(保育補助)4名/朝夕パート保育士2名/看護師1名/栄養士1名/調理員2名/パート調理補助2名/事務員1名

## 6. 計画の内容

5か年計画(2024年度～2028年度)	
1) 保育事業	
①通常保育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障害の有無にかかわらず、真に子どもがよりよく生きていくことができるよう、ひとりひとりの子どもの得意を伸ばしながら自己肯定感を育む保育を進めます。時には、保護者に理解・協力を仰ぎ、個別支援加算・障害児加算を得、園児も職員も安心して保育ができるようにします。継続して発達療育支援を学び、職員は適切な保育を行います。</li> <li>・保育所保育指針に沿った子どもの主体性を尊重した保育</li> <li>・五感を育む保育。非認知能力を育み育ちの基礎を作る保育</li> <li>・ふれあいを大切に人との信頼を築く保育</li> <li>・実体験を大切にした保育</li> <li>・幼児の異年齢保育</li> </ul>
②一時保育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労要件・リフレッシュ要件・緊急一時要件など、様々な理由で保育を必要としている家庭の子ども(1歳児・2歳児を中心に)を保育し、子どもと保護者が安心して生活できるよう支援します。</li> </ul>
③子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域支援講座・地域交流・園庭開放の実施。育児不安・悩みに応えられる子育て相談の設置。虐待防止を含め要保護児童対象児など専門的に地域と連携し子どもの権利を守っていきます。地域支援担当チームの確立。育児相談体制の確立。地域への宣伝アピール。しゃべり場やミニ懇談会の開催。音楽会や園児との遊び交流会へのお誘い。</li> </ul>

2) 施設整備等	
①機械・機器・器具等の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落下防止用のストッパーの設置</li> <li>・スチームコンベクション・コンロの修繕及び買い替え。</li> <li>・エアコンの部品交換</li> <li>・パソコンの買い替え及び増設</li> </ul>
3) 人材育成・体制	
①幹部養成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人内会議の定例開催（三役・実務者・園長・主任・リーダー・栄養士・事務）・主任保育士のフリー配置 ・副園長配置 ・次期園長候補配置 ・次期リーダー配置</li> </ul>
②養成校との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各校訪問の実施・就職相談会への参加</li> </ul>
③保育実習生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習担当専任者の配置。実習生への情報発信。実習生の就職採用</li> </ul>
④職員のキャリアアップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新人職員養成の確立。矢向あけぼの保育園マニュアル集の配布</li> <li>・園外での保育実践発表。分野別研修チームの確立</li> <li>・全国民間保育園経営懇話会主任セミナーへの参加（主任・リーダー）</li> <li>・職員研修カルテの作成。キャリアアップ研修への参加</li> </ul>
⑤インターンシップ 職業体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当者の配置。</li> <li>・積極的に、中学生・高校生・大学生を受け入れます。</li> </ul>
⑥卒園児との交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児とのあそび交流。特技・あそびの披露会など実施。</li> <li>・職業体験の受け入れ。</li> </ul>

4) 防災・救急対策	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練の実施。・備蓄品の管理。（防災用の倉庫の設置）</li> <li>・地域の防災訓練への参加。・災害時の町内会との連携。</li> <li>・防災研修開催。・防災講座受講。防火管理者講習受講。</li> </ul>
5) 保護者との連携	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者会の活動を尊重し、協力関係を深めていきます。</li> </ul>
6) 地域貢献	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の子育て拠点及び開かれた施設として地域住民が活用できるように細則整備。施設開放・貸出し。</li> <li>・近隣高齢者との交流</li> <li>・汐田総合病院と連携・交流をします。</li> <li>・病後児保育、発達支援センターなどの子育て支援拠点としての事業を検討・計画化します。</li> </ul>
7) あけぼの後援会	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・矢向あけぼの保育園の卒園児・保護者をはじめ、矢向あけぼの保育園を応援・支援する人たちの集いの場を設けます。「あけぼの」というアイデンティティを介して人々が支援し合えることや、矢向あけぼの保育園の永続性の追求のために、財政支援の一翼を担います。</li> </ul>
8) エコ活動	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・布おむつ使用</li> <li>・太陽光発電等発電機器の使用</li> <li>・EM 活性液作り、土づくり再利用をします。</li> </ul>
9) 10 周年記念行事の実施	



## 7. 保育制度の拡充に向けた取り組みの促進

他園・他団体との連携をとり、会議・研修・運動に参加し保育制度の充実、拡充にむけ取り組みを進めていきます。

- 全国保育団体連絡会 ○神奈川県保問協議会 ○横浜市保育問題協議会
- 日本子どもを守る会 ○保育研究所 ○横浜市社会福祉協議会保育福祉部会
- 横浜市私立保育園こども園園長会 ○よこはまの保育を考える園長の会
- 鶴見区子育て教育懇談会

## 6. 計画の進行管理

- ・理事会は、実施状況の評価と見直し・改善を行います。



注記 1 項目最初の数字、時期の年は省略しています。

2 参考文献 『福祉社会をひらく 神奈川県社会福祉協議会の40年』  
/関係年表（子どもの福祉をめぐる展開）全国社会福祉協議会

## (2) 保育士の倫理綱領

すべての子どもは、豊かな愛情のなかで心身ともに健やかに育てられ、自ら伸びていく無限の可能性を持っています。

私たちは、子どもが現在（いま）を幸せに生活し、未来（あす）を生きる力を育てる保育の仕事に誇りと責任をもって、自らの人間性と専門性の向上に努め、一人ひとりの子どもを心から尊重し、次のことを行います。

私たちは、子どもの育ちをささえます  
私たちは、保護者の子育てをささえます  
私たちは、子どもと子育てにやさしい社会をつくります

（子どもの最善の利益の尊重）

1. 私たちは、一人ひとりの子どもの最善の利益を第一に考え、保育を通してその福祉を積極的に増進するよう努めます。

（子どもの発達保障）

2. 私たちは、養護と教育が一体となった保育を通して、一人ひとりの子どもが心身ともに健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境を用意し、生きる喜びと力を育むことを基本として、その健やかな育ちを支えます。

（保護者との協力）

3. 私たちは、子どもと保護者のおかれた状況や意向を受けとめ、保護者とより良い協力関係を築きながら、子どもたちの育ちや子育てを支えます。

（プライバシーの保護）

4. 私たちは、一人ひとりのプライバシーを保護するため、保育を通して知り得た個人の情報や秘密を守ります。

（チームワークと自己評価）

5. 私たちは、職場におけるチームワークや、関係するほかの専門機関との連携を大切にします。また、自ら行う保育について、常に子どもの視点に立って自己評価を行い、保育の質の向上を図ります。

（利用者の代弁）

6. 私たちは、日々の保育や子育て支援の活動を通して子どものニーズを受けとめ、子どもの立場に立ってそれを代弁します。また、子育てをしているすべての保護者のニーズを受けとめ、それを代弁していくことも重要な役割と考え、行動します。

（地域の子育て支援）

7. 私たちは、地域の人々や関係機関とともに子育てを支援し、そのネットワークにより、地域で子どもを育てる環境づくりに努めます。

（専門職としての責務）

8. 私たちは、研修や自己研鑽を通して、常に自らの人間性と専門性の向上に努め、専門職としての責務をはたします。

平成 15 年 11 月 29 日に保育士は国家資格化となりました。「倫理綱領」とは、専門職の職能集団が自らの職務を遂行できるうえで、守るべき行動の指針（約束すべき課題）を明記して公表したものです。

専門資格者として、あるべき人間性・責任感・倫理性に魂が入るよう”絵に書いたもち”にならぬよう、努力していきたいと思っています。

- (3) 保育園づくりの基本の樹 (別紙 1)
- (4) 横浜市第 2 期子育て支援事業計画 (2020 年度～2024 年度鶴見区) 2022 年度中間見直し (別紙 2)
- (5) 2013 年度～2022 年度平均入所児童数の推移 (別紙 3)
- (6) 2018 年度～2022 年度人件費比率、事業費比率、事務費比率の推移 (別紙 4)
- (7) 2018 年度～2022 年度常勤職員の給与総支給額の推移 (別紙 5)

別紙1

- ②
  - A. 保育内容
    - ・質の確保
    - ・人的確保
    - ・保育時間確保
  - B. 育児を支えるパートナー  
(育児相談・育児アドバイス)
- ③
  - A. 制度の保障
    - ・就業規則(母性保護)
  - B. 働きやすい環境
    - ・園舎設備
  - C. 民主的な職員集団
- ④
  - A. 情報発信
  - B. 集いの場の提供
  - C. 子育て相談など  
(子育て支援センターとしての役割)
- ①
  - A. 生活の保障
    - ・場所・時間・道具・雰囲気
  - B. 遊びの保障
    - ・場所・時間・道具・雰囲気

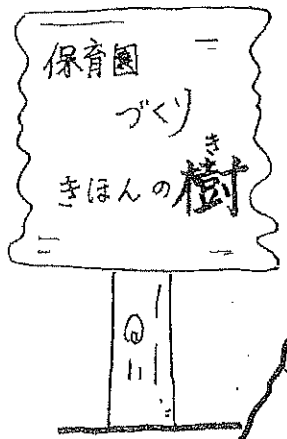
(これに加え、幼児は生きるための「労働・人の為の労働」)

生活・遊びを保障するために各年齢に適したより良い  
場所・道具・雰囲気・時間をつくり  
出していく。

民主的な人間関係

それぞれが互いの立場から、  
それぞれが自由に発言でき  
話し合えること

- ① 子どもの発達保障
- ② 親が安心して子育てできる社会
- ③ 保育者が健康で働き続けられる労働条件
- ④ 地域の子育て支援・子育てセンター



認可園づくりの際、大切にしたいことを確認し、三園長(武川・秋元・穴井)でこの樹を作りました。

新園長 武川洋子  
あけぼの共同保育所  
園長 秋元より子  
矢向あけぼの共同保育所  
園長 穴井真紀子  
2005年3月現在

憲法・児童憲章  
子どもの命・育ちを守る

(別紙2)

横浜市第2期子育て支援事業計画(2020年度～2024年度 鶴見区)  
※2022年度中間見直し

(ニーズ割合)			
	0歳	1～2歳	3～5歳
当初計画	33.6%	55.5%	62.0%
中間見直し	31.8%	57.3%	62.0%

	(量の見込み 当初計画)				(量の見込み 中間見直し)			
	0歳	1～2歳	3～5歳	合計	0歳	1～2歳	3～5歳	合計
2020年度	624	2,381	4,074	7,079				
2021年度	662	2,453	4,259	7,374				
2022年度	700	2,525	4,444	7,669	591	2,552	4,360	7,503
2023年度	738	2,597	4,629	7,964	576	2,572	4,407	7,555
2024年度	776	2,670	4,816	8,262	562	2,592	4,454	7,608

(量の見込み 当初計画と中間見直しとの差)				
	0歳	1～2歳	3～5歳	合計
2022年度	-109	27	-84	-166
2023年度	-162	-25	-222	-409
2024年度	-214	-78	-362	-654

(2023年10月1日現在)				
	0歳	1～2歳	3～5歳	合計
入所可能数	576	2,576	4,257	7,409
入所児童数	533	2,490	3,988	7,011
差	43	86	269	398

(2023年10月1日現在)				
	0歳	1～2歳	3～5歳	合計
中間見直し	576	2,572	4,407	7,555
入所児童数	533	2,490	3,988	7,011
差	43	82	419	544

全市	(量の見込み 当初計画)				(量の見込み 中間見直し)			
	0歳	1～2歳	3～5歳	合計	0歳	1～2歳	3～5歳	合計
2020年度	6,856	25,354	45,381	77,591				
2021年度	7,131	26,020	46,456	79,607				
2022年度	7,406	26,686	47,531	81,623	6,437	26,994	48,199	81,630
2023年度	7,681	27,352	48,606	83,639	6,317	27,737	48,035	82,089
2024年度	7,941	28,007	49,683	85,631	6,193	28,485	47,875	82,553

(量の見込み 当初計画と中間見直しとの差)				
全市	0歳	1～2歳	3～5歳	合計
2022年度	-969	308	668	7
2023年度	-1,364	385	-571	-1,550
2024年度	-1,748	478	-1,808	-3,078

(別紙3)

平均入所児童数の推移

クラス	単位：人										
	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	平均
0	7.8	9	9	9	8	9	9	9	9	6.5	8.5
1	12	12	12	12	12	11.9	11.9	12	12	12	12.0
2	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12.0
3	11.5	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12.0
4	12	12	12	12	12	11.8	12	12	12	12	12.0
5	12	12	12	12	12	12	12	12	11	12	11.9
合計	67.3	69	69	69	69	68.7	67.9	69	68	66.5	68.3

矢向あけぼの保育園

クラス	単位：人										
	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	平均	
0	6	6	5.9	6	6	4	4.5	6	4.3	5.4	
1	13	5	9	8	8	10	8.4	8	8	8.6	
2	13	13	8.4	9.9	10	9.9	10	9.6	8.9	10.3	
3	14	12.6	13	9.6	12	10.9	12	11.9	11.9	12.0	
4	2.3	12	11.9	12.8	11	12.7	11	12	12	10.9	
5	0	4	12	13	13	11	13	11	12	9.9	
合計	48.3	52.6	60.2	59.3	60	58.5	58.9	58.5	57.1	57.0	

## (別紙4)

## 2018年度～2022年度人件費比率、事業費比率、事務費比率の推移

## 鶴見あけぼの保育園

	2018	2019	2020	2021	2022	平均	単位;千円
事業活動収入	161,900	153,540	168,923	167,925	162,254	162,908	
人件費支出	130,324	117,950	124,654	135,544	131,012	127,897	
事業費支出	14,100	12,137	11,452	12,608	13,150	12,689	
事務費支出	20,285	12,138	16,437	22,014	16,220	17,419	
当期資金収支差額	△2,760	6,016	3,258	△1,472	△1,626	4,637	

	2018	2019	2020	2021	2022	平均
人件費比率	80.5%	76.8%	73.8%	80.7%	80.7%	78.5%
事業費比率	8.7%	7.9%	6.8%	7.5%	8.1%	7.8%
事務費比率	12.5%	7.9%	9.7%	13.1%	10.0%	10.7%
合計	101.7%	92.6%	90.3%	101.3%	98.8%	97.0%

## 矢向あけぼの保育園

	2018	2019	2020	2021	2022	平均	単位;千円
事業活動収入	139,514	140,565	150,117	145,518	161,219	147,387	
人件費支出	102,508	107,232	116,950	112,030	121,190	111,982	
事業費支出	9,267	9,216	9,534	8,822	8,698	9,107	
事務費支出	23,250	20,293	23,140	29,327	24,270	24,056	
当期資金収支差額	6,838	3,202	△967	△5,428	4,241	4,760	

	2018	2019	2020	2021	2022	平均
人件費比率	73.5%	76.3%	77.9%	77.0%	75.2%	76.0%
事業費比率	6.6%	6.6%	6.4%	6.1%	5.4%	6.2%
事務費比率	16.7%	14.4%	15.4%	20.2%	15.1%	16.3%
合計	96.8%	97.3%	99.7%	103.2%	95.6%	98.5%

(鶴見あけぼの保育園と矢向あけぼの保育園の事業費と事務費比率差について)  
 ※事業費;水道光熱費が、鶴見あけぼの保育園は矢向あけぼの保育園より多い。  
 ※事務費;矢向あけぼの保育園は園舎家賃がある。



(別紙5)

2018年度～2022年度常勤職員の給与総支給額の推移

鶴見あけぼの保育園

単位:千円

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2018年度比
平均 A	4,854	5,079	5,324	5,659	6,086	125.4%
平均 B	4,288	4,449	4,567	4,846	5,179	120.8%

矢向あけぼの保育園

単位:千円

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2018年度比
平均 A	4,583	4,743	4,877	5,118	5,521	120.5%
平均 B	4,147	4,156	4,439	4,589	4,909	118.4%

※園長、契約職員、短時間勤務職員、年度内中途採用者は除く  
 ※平均Aは、2018年度から在職している職員 鶴見6人、矢向5人の平均  
 ※平均Bは、その年度に在職している職員の平均

単位:千円

厚生労働省 2022年度賃金構造基本統計調査 総支給額 (10人以上)

	総支給額	全産業比
全産業	4,966	
全産業(女)	3,944	79.4%
全産業(男)	5,549	111.7%
医療、福祉	4,562	91.9%
医療、福祉(女)	4,181	84.2%
医療、福祉(男)	5,504	110.8%

職員一人当たり人件費

2021年度	
福祉医療機構(保育)	4,148
鶴見あけぼの保育園	5,994
矢向あけぼの保育園	4,661

2022年度	
鶴見あけぼの保育園	5,898
矢向あけぼの保育園	5,331

※福祉医療機構 2021年度 経営分析参考資料 (保育所)  
 ※法定福利費含む  
 ※パート職員は常勤換算

# あけぼの紙芝居

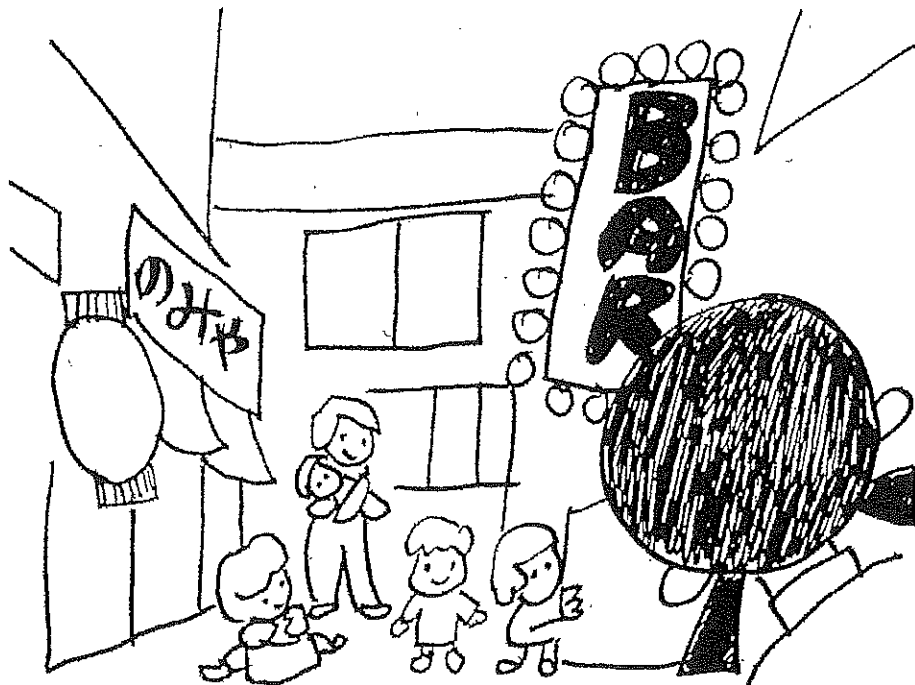
※この紙芝居の  
スタートは、  
1978年頃です。

保育士という  
名称が当時のま  
まの保母になっ  
ています。  
ご了承ください。



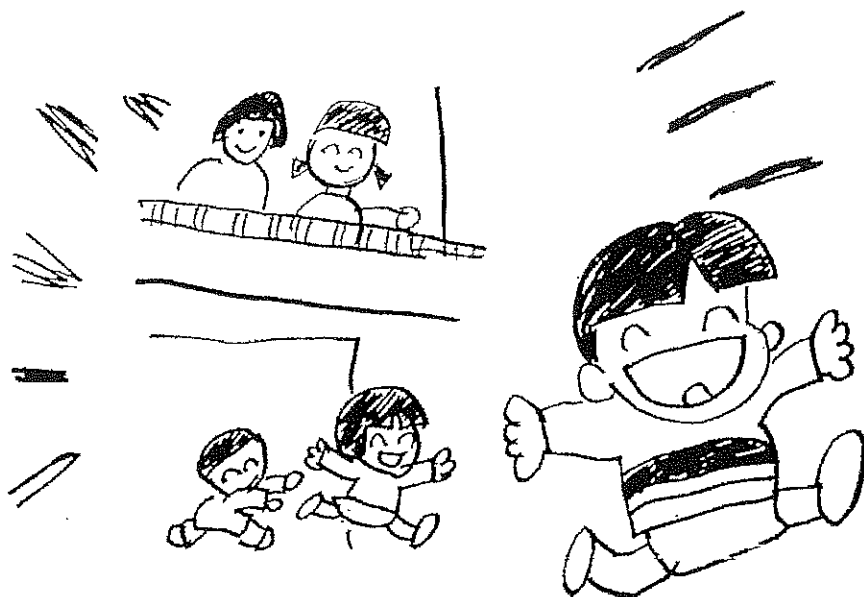
## ①保育所探し

今は昔、この鶴見に子どもが生まれんとする若夫婦が住んでおった。この二人、何の贅沢をしているわけでもないのに暮らしは貧しく、ただ健康で働き続けることに生き甲斐を持っておった。さて、子どもが産まれると働くためには子どもを預かってくれるところを探さなきゃならんとあって大きなお腹を抱え人に尋ねたり、電柱の張り紙を探したり保育所探しに歩いていた。そんな時「あけぼの共同保育所」を人から聞いた。



## ②本町時代

行ってみるとそれはそれは、汚い陽の当たらぬアパートの一階にあった。まわりはと言えはバーや飲み屋の路地の裏というところで、火事でもあったらと思うともう子どもを預けるのは「恐ろしい」と思ったくらいだ。仕方なく東京へ引っ越そうとしてる時だった。この「あけぼの共同保育所」が近くに引っ越してきたという話を聞いて、これも何かの縁とばかりに見に行くと・・・・・・・・。



### ③移転

それはそれは素晴らしい御殿みたいじゃった。「うっそー」とおっしやる方もあろうが、あのアパートに比べたら、そりゃ御殿に見えたものよ。近くに公園もあってな、しかし身ひとつで越してきたようなもんだから、部屋の中はガラーンとしていて何も無い。畳すらなくてな。でもまあこれからよくなる可能性だけはいっぱいあったんじゃ。

二人は安心して、子どもを産んだんじゃ。産まれたのはかわいい男の子だった。産休が明けていざ仕事となると母親は泣けてな。保育所のドアを開けると産休明けの子も三歳児もひとつの部屋でワーワー ギャーギャーやっけていて、いつ踏まれるやら、夕方子どもの顔を見るまでは心配でならなかった。初めての子じゃもん。仕方あんめえ。



### ④父母会活動

ところが、ひと月ふた月と日経つにつれて、保母さんとも話ができるようになるとやっと安心して子どもを預けられるようになってきた。すると、今度は環境の設備や保育内容が気になる。経営者がいない

「共同保育所」とは、頭でわかっているけど実感としてよくわからない。自分たちも経営者のひとりだと説明されるとこの二人、責任感じてな。

「あけぼの」を良くも悪くもするのは親の肩にかかると思うと進んで父母会の役員を引き受けた。このときにゃ、自分の子かわいさによ、やることはたくさんあった。何せこんな御殿を買ったものだから、借金を抱えて経営は火の車だった。時計一つ、たんす一つ、と次第に保育所らしくなってくる。申し込みも増えて、断りきれないほど電話があった。何せ、鶴見での産休明けをやっている所はないと言っているくらいだったから。申し込んだ父母に集まってもらい実情を知らせ、隣の部屋の購入を呼びかけた。保育園の隣だからと売れ残っていたのだ。そしてついに拡張したのが1987年のことであつた。じゃーん!



### ⑤ 拡張

年齢別保育を実施するようになると、保母の数の増え、保育内容もいちだんとよくなった。当然経費はかさむ、保母からは賃上げ要求はでる。賃上げすれば、保育料は大幅値上げ、二重の借金を抱え自転車操業とっていいくらいの綱渡り経営だった。この危機を乗り越えるために夜遅くまで何度も話し合い、それぞれ違った職業を生かし知恵を出し合った。そんな中で父親の会、母親の会ができ、保育についても語り合い勉強しあい、園行事として遠足やもちつきなど楽しいこともいろいろやってきた。経営を助ける為に商売もぐんと上手になってきた。



### ⑥ バザー

毎年バザーの実行委員長は女性であった。2~3ヶ月前から保母さんを中心に手作りの品の製作にとりかかり、不用品を集め、前日の値段付け、と連日実行委員会を中心に準備が進められた。当日は朝から宣伝カーを街に流し、街頭でピラ配り、開場前になると鶴見公会堂入り口に行列ができるほどだった。「夏祭り」も園前の公園で近所の人たちと一緒に楽しみ「保育と講演の夕べ」では地域の人たちとこどもの発達と保育について考えてきた。地域に根ざし地域に愛される保育園にしようとして強く感じたものだった

いざ地震というときには公園隣の全日自労のおじさんおばさんが子どもたちの救済の手伝いを約束してくれているそうじゃ。ありがたい、ありがたい。

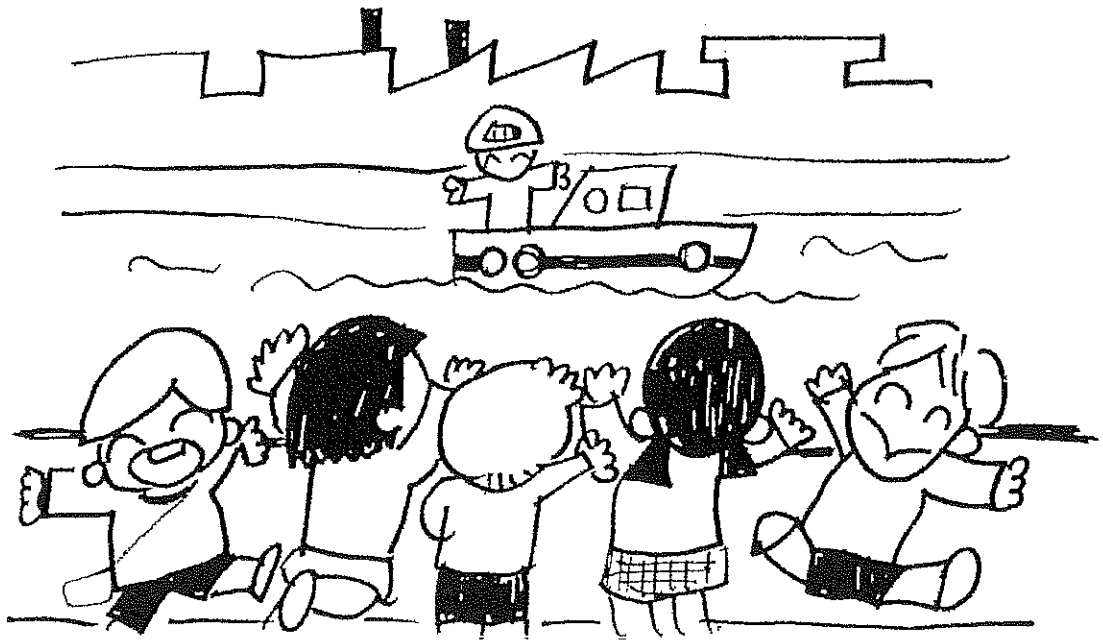


### ⑦鶴見あけぼの会の設立

あけぼのが28名の子を抱え、何とかかんとか発展したこの時期にベビーホテルの事故が相次ぎ、社会問題となった。子どもが営利の犠牲になっとなる社会じゃ。鶴見にもベビーホテルが林立する中で、この実態を重視し、自分たちの存在価値をますます認識したんじゃが、お上はベビーホテルもあけぼのと一緒にして色々な規制をしてくる。税務署まで来るやらで経営母体をはっきりしなくてはならなくなってきた。

困ったときに救いの神が現れたんじゃ。すぎるような気持ちじゃった。リュックひとつで全国を行脚しておられた全国無認可保育所協議会議長：高木先生だった。「あけぼの」の社会的責任、保母や父母が安心して働き続けられるために、保育所の管理、経営母体の確立を！と準備に入ったのじゃった。

そして、1981年11月鶴見あけぼの会が誕生したのじゃった。



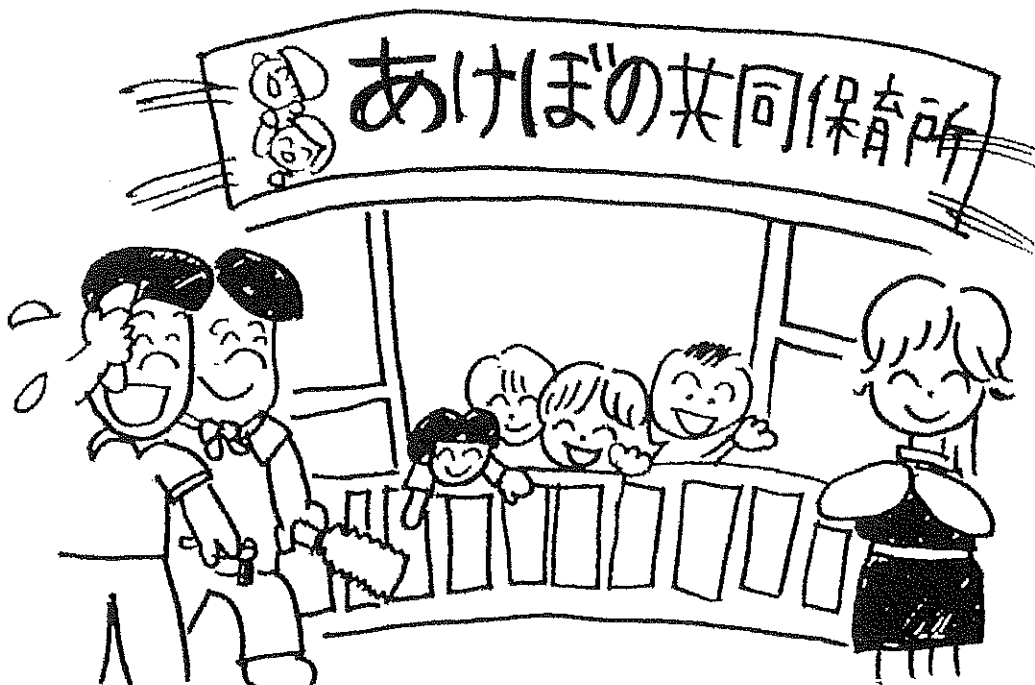
### ⑧発展

今、この若夫婦には二人目の子どもに恵まれてな。それはそれは可愛い女の子じゃ。この子もあけぼので大きくなり、今は二人とも元気に公立保育園に行っている。この5年間、子どもたちも大きくなったが、親たちも保母達も育ち合い、今はどの子もみんなすばらしい社会にしていかねばとあけぼの共同保育所の発展が、親を地域を社会を変えていくのじゃ。



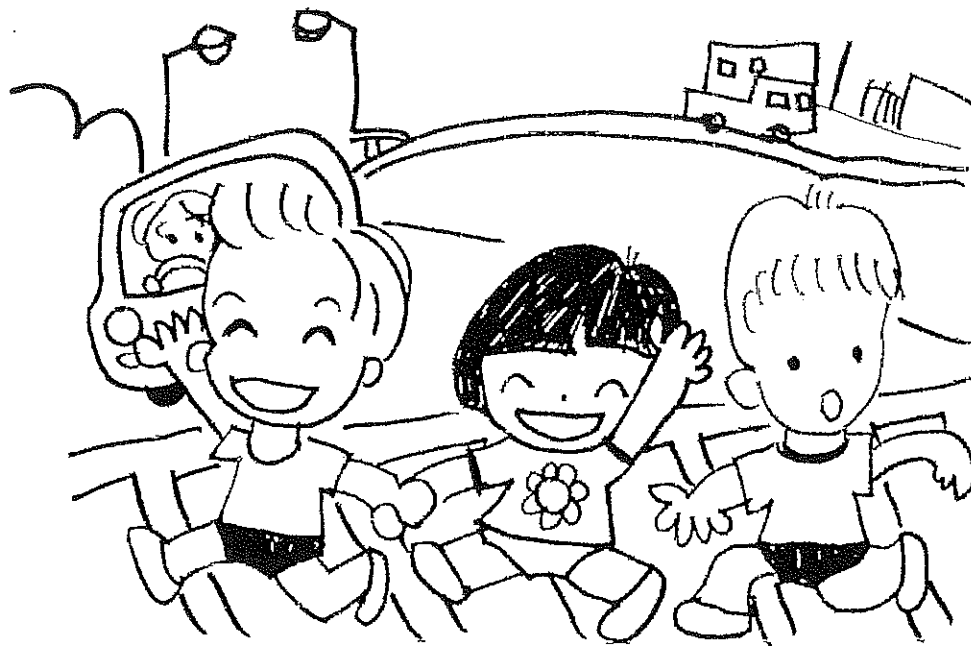
### ⑨分室

「二人目の子どもどうしよう。カナダから帰っても預けるところがないの。」  
 「この子を何とか見てもらえないでしょうか？希望はあけぼのなのです。  
 何でもします。」こんな多くの声を受けて、理事会は「よし！分室を作ろう」と  
 あっちこっちと見て回ったり、以前生協の飯店跡を分室にすることにしたんじゃ。



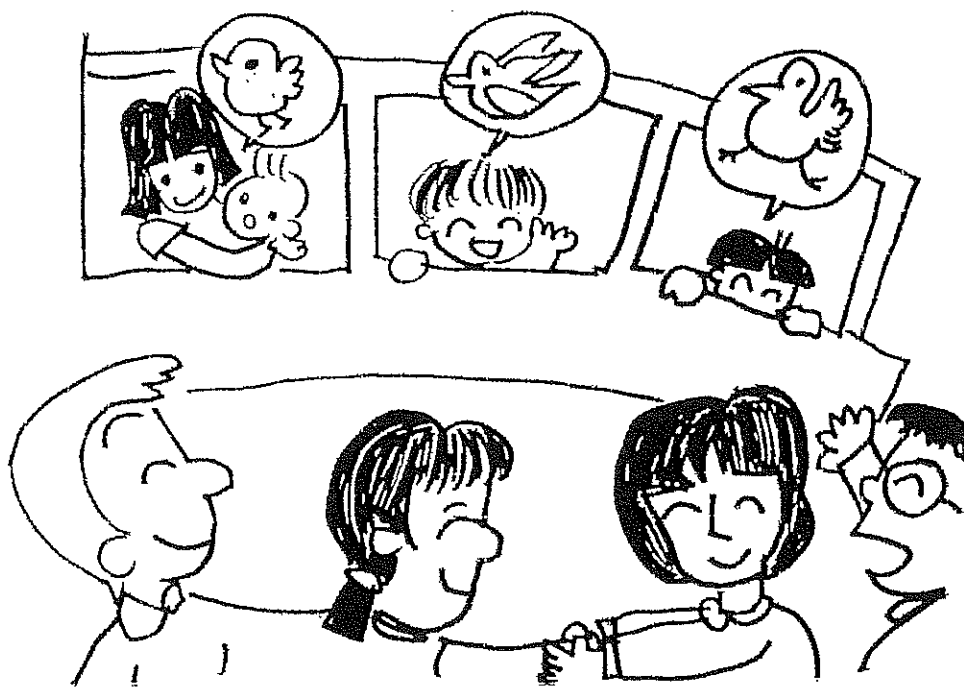
### ⑩みんなの協力

「もう11時だぞ。こんなことするなんて思わなかったな。でも、やりがいあるな。俺の可愛い子どものためだもん。」お父さん、おじいちゃん達が仕事が終わった後、また日曜日も返上しての努力で新しい分室は約2週間で作られた。もちろん、お母さん達や保母さん達もおいしい炊き出しをしたり、ペンキ塗りもした。何でも話し合い行動するあけぼのの理事、父母、職員集団はとうとう手作りで保育所を完成したのじゃ。地区の保育要求に応じられ、また地域の子育てセンターを目指してこれからも皆で協力し頑張り続けよう。



### ⑪分室パート2

新しく出来た分室は、道に面しているためガラス越しに保育内容が見え「子ども達は生き生きとやっているんですね」等の声も聞かれるなど、すっかり、地域に根をおろしたと思えた。しかし、分室が離れているため、給食を本園に運んだり用を足すために何回も往復しなければならないなど問題があった。最大の難点は公園に行くときに2回も交差点を渡らなくてはならず、子どもたちにとって大変危険なことであった。つばめ組のお母さんをはじめ、職員、理事会も何とかよい場所はないかと探し回っておった。この間、3年間という長い時間が経ってしまった。



### ⑫3室総合

1986年8月、園児の悲しい事故が起きてしまった。この事故を契機に保育園の完全見直しが始動され、事故対策委員会が設置されるなど、父母、職員、理事の団結が強まると共に本園隣に分園を移転させて下さいと親から強い訴えが出されてきた。理事会では、202号室の持ち主である大賀さんと粘り強い交渉を開始した。

大賀さんありがとう。とうとう分園移転が出来た。バンザイ！子どもも親も職員もみんな大喜び。移転費用は子どものためなら「やるっきゃない！」と父母から気持ちよく出された。あけぼのの発展を望む強い力に支えられ、3室統合パーティーが開かれた。最後に部屋の改造のため大きな音で迷惑をかけた皆様、本当にすみませんでした。これからもよろしくお願ひします。



- 毎年12月は一年中で最も忙しい時期。来年度の予算編成に向けて、国と市への署名活動と共に大バザーをしていたからです。しかし、乳児を抱えてのバザーは大変ということで、1989年よりバザーに替わって人形劇に取り組みました。  
1年目は、ひとみ座の「眠り姫」 2年目はブークの「怪獣がやってきた」  
この2公演とも大好評で各1000枚からの協力券を売り、《子どもたちによりよい文化を》の願いも達せられ、大成功を収めました。  
また、1990年12月には保育園の3階308号室が売りに出され、父母、職員、理事、OB地域の人々の協力のもと、購入することができ職員の休憩室や園長の事務室が、確保できるようになりました。これからも、あけぼの共同保育所は地域に根ざした保育所を目指し、さらに発展していくことでしょう。

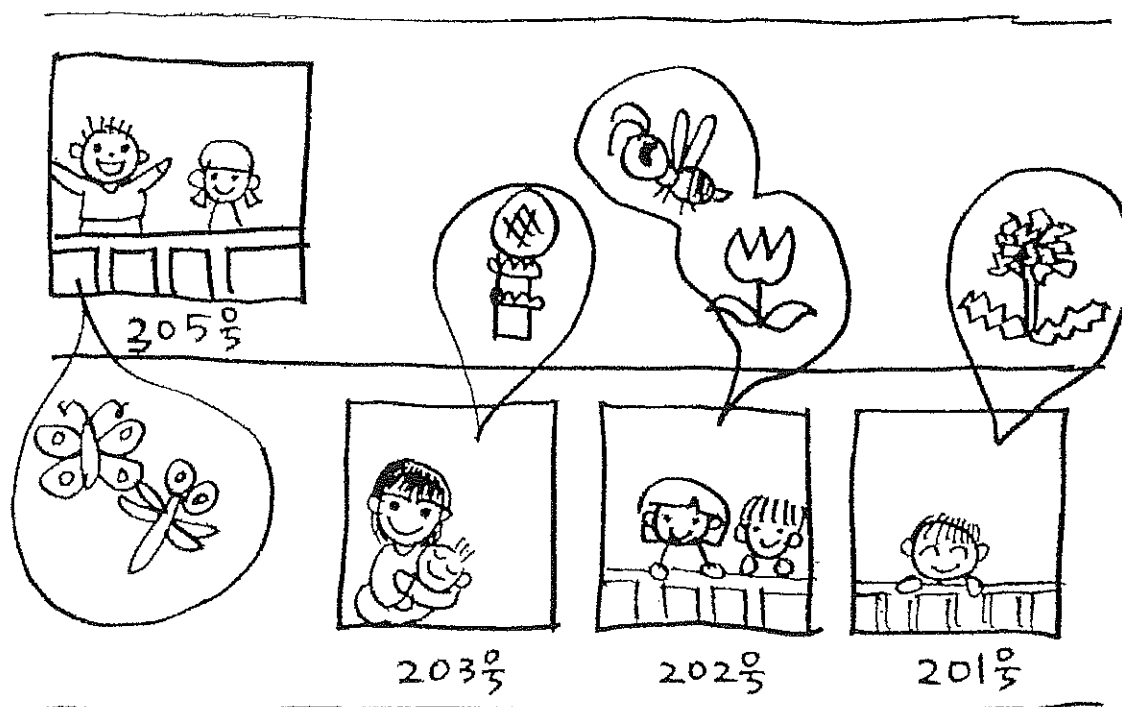


- 1997年、地域保育室から横浜保育室となり、市より助成金を受けられるようになりました。そして、横浜は緊急五か年計画を策定し、この鶴見区下末吉地区に私有地貸与の認可園をつくる計画がだされました。あけぼの共同保育所は、これを受けて認可準備委員会を設立し、子ども達に園舎をつくり公的保育を守り、地域によりよい保育を根ざしたいという願いのもと運動を始めました。  
2000年2月、上末吉に出された認可園設立者公募に出しましたが、選ばれませんでした。  
2000年10月、あけぼの共同保育所の入園しおり(カラー)を作成。  
同年12月には、ホームページも開設しました。

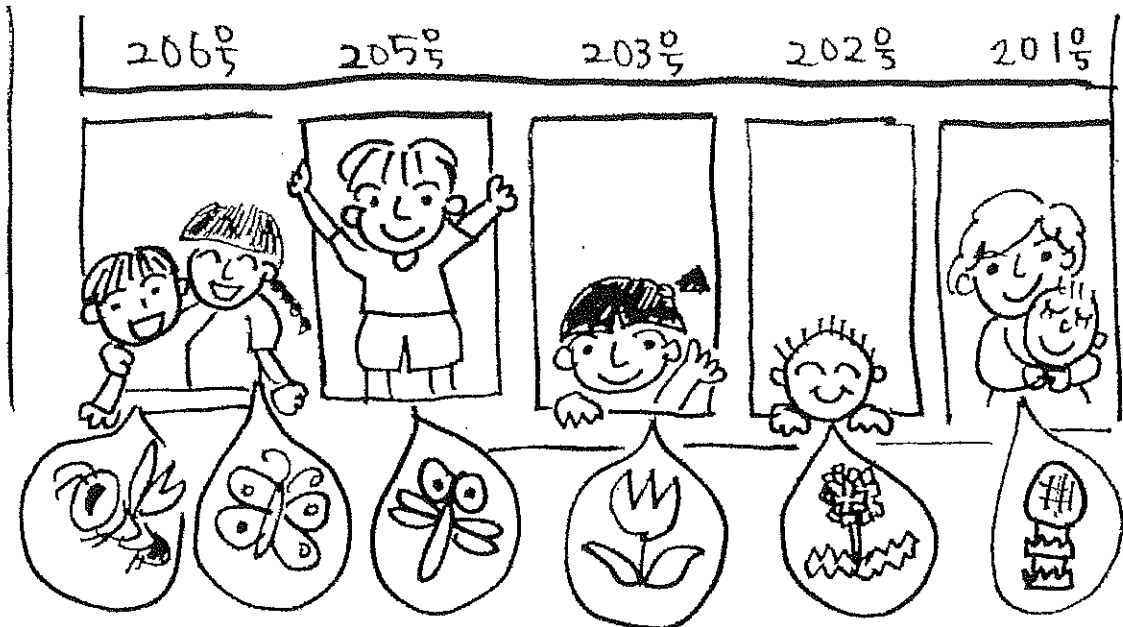




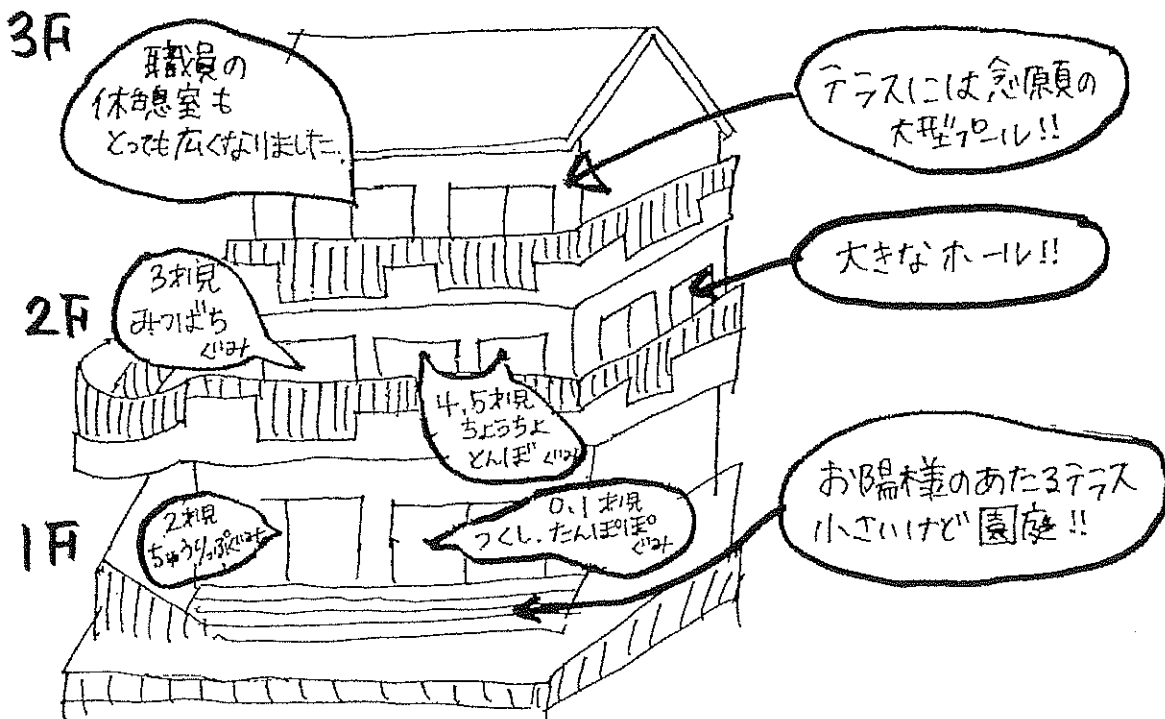
- 汐田病院が矢向に新設するに伴い、矢向地域の保育所不足を考え、2001年1月矢向あけぼの共同保育所を4月に開所することが決まりました。



- 2001年12月  
305号室に住んでいた細野さんより売却のお話を頂き職員で話し合いました。その結果、年齢別保育・就学前までの保育を保証すること・その他幅広く活用することを目的に確保する事に決まりました。理事長の金谷さんが個人で購入してくださり、それをあけぼのでお借りすることになりました。大幅にリフォームすることになり、山口建設さんにお世話になりました。12月3日住民の方もお招きして、盛大に開所式を行いました。あけぼのにとって大変悲しい事がありました。あけぼのを築きこれまで支えて下さった、星田勝子園長先生が12月11日に亡くなりました。星田先生の意志を引き継ぎみんなで認可園に向け、前進しようと誓いました。



- 2003年7月 あげぼの共同保育所は206号室を購入
- 2004年5月 205号室購入し、ベランダづたいに0~5歳の保育室が並びました。異年齢の交流や保育士にとっても働きやすくなりました。  
また、市有地公募に選ばれ開園にむけて、父母、理事、職員でたくさんのお話し合いを重ねてきました。



- 2005年4月 鶴見あげぼの保育園がスタートしました。念願の園舎・園庭のある新しい園子どもたちとの生活が始まりました。同時にあげぼの共同保育所は0~2歳の乳児保育所へ縮小し、矢向あげぼの共同保育所と3園の運営が始まりました。

- 2014年4月 日頃から協力関係をいただいていた、薬局経営の「ヒューメディカ」さんの新築のビルの2.3階を保育施設として賃貸借できることになり、矢向共同保育所が矢向あげぼの保育園として認可園になりました。



1967年から保育を開始し、約55年間大勢の子ども達を育ててきた、あげぼの共同保育所が閉園しました。待機児解消のための認可保育所増設が進み、園児が入所しても認可園へ転園してしまうという流れが数年前からありました。今後について検討委員会を設置し話し合ってきました。存続できないか様々検討しましたが、総合的に考え、閉じる結論に至りました。

2022年4月の一か月だけ、園児が一名残りましたので「お友達と一緒に過ごせるのが一番！」と考え、鶴見あげぼの保育園に保育士と一緒に毎日来てもらい過ごしました。

たくさんの人の思いを乗せて、脈々と引き継がれ運営されてきたあげぼの共同保育所。「共同の子育て」の原点であり、区内の子育て支援の拠点的役割を果たしてきました。

共同保育所の精神を土台とし、今ある認可保育所2園の運営に力を集中し、“あげぼの”は、子どもたちのために、すべての人のために、進化し続けたいと思います。

ありがとう！あげぼの共同保育所！

社会福祉法人鶴見あけぼの会  
法人・保育園中期計画

---

発行年月 2024年3月

社会福祉法人鶴見あけぼの会

横浜市鶴見区鶴見中央 1-18-10

電話番号 045-511-1304

E-mail: turumi@akebono-hoikuen.org

鶴見あけぼの保育園

横浜市鶴見区鶴見中央 1-18-10

電話番号 045-511-1304

E-mail: turumi@akebono-hoikuen.org

矢向あけぼの保育園

横浜市鶴見区矢向 1-5-26

電話番号 045-581-7828

E-mail: yakou@akebono-hoikuen.org

---